



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	瀬谷 研一
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2010年11月第3週号

第2292回



平成22年11月19日(金) 点鐘12:30(晴れ)

- ◆ロータリーソング 『手に手つないで』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- 本日のゲストスピーカー／スズキ・メソードヴァイオリン教室
土岐クラス主宰 土岐 尽様
- 社会福祉法人「榎の実会」ひかり学園
支援課長 武藤 直樹様
課長補佐 高安 一弘様
主任 佐藤 圭一様

■ 会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

14日(日)、習志野中央RC・創立25周年記念式典に水野ガバナー補佐、吉田会員、寺澤会員、私の4名で出席して参りました。22日は、千葉東RC・創立20周年記念式典に出席して参ります。

■ 委員会報告

親睦委員会より (上田欽一委員)

準備の都合上、12/17日(金)の忘年家族例会のご出欠のお返事を早急に事務局までお願い致します。

■ 幹事報告 小林 透幹事

26日(金)の例会は、移動例会(倶楽部泉水)です。バスの送迎がありますので、ご利用下さい。

(千葉駅NTT前/11時 蘇我駅千葉銀行前/11時15分)

■ ニコニコボックス報告

☆植松 省自会員

土岐様、本日の卓話、宜しくお申し上げます。

☆向後 保雄会員

土岐先生は、私の娘のヴァイオリンの先生です。出来の悪い娘ですが、いつも丁寧にご指導いただいております。

す。今日は、先生の“やる気”の起こさせ方のご講義、宜しくお願い致します。

本日のニコニコボックス	4,000円	累計	289,000円
金の箱	320円	累計	14,493円

■ 出席報告 (会員数40名)

出席者数30	欠席者数10	ビジター 4	修正出席率 79.49%
--------	--------	--------	--------------

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい](#)

千葉RC	月	12/13・27	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	12/14・28	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	12/21	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	12/15・22・29	京成ホテルミラマレ
千葉北RC	水	12/8・22・29	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	12/9・30	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	12/16・30	京成ホテルミラマレ

★ 本日の卓話 ★

演題…『スズキ・メソードにおける学ぶ意欲の育て方』

卓話者… スズキ・メソードヴァイオリン教室
土岐クラス主宰 土岐 尽様



ただ今、ご紹介に預かりました土岐尽様でございます。私はスズキ・メソードという音楽教育団体でヴァイオリンを指導しております。普段、私は指導のほかに病院や幼稚園で演奏しております、30分から1時間位お話を挟みながら演奏しているのですが、今日は30分のお話で演奏は1曲ということですのでよろしくお願い致します。

スズキ・メソードについて簡単にご紹介いたします。創始者の鈴木鎮一は、1898年に国産のヴァイオリンを始めて製作し、後にヴァイオリン製作工場を設立しました鈴木政吉の次男として生まれました。17歳の時にミッシャ・エルマンの弾くアベ・マリアのレコードを聞いて感動し、



ヴァイオリンを始めました。ドイツに留学し帰国後にスズキカルテットを結成し、演奏活動をしながらいち帝国高等音楽院の教授として学生の指導にあたりました。1948年に子供を中心に教えたいという思いから才能教育研究会を設立し、長野県松本市に本部を置きまして、音楽の幼児教育運動を始めました。その後の活動につきましては省略させていただきますが、ここでスズキ・メソッドの核となる思想をご紹介します。

それは、「母語教育法」と言われるものであります。鈴木は日本の子供は全員日本語を話しているということに着目し、人は環境によって育つということに気付いたのです。これまではヴァイオリンに限らず、音楽教育では子供の能力が育つ為に、遺伝即ち先天的に優れた素質が必要であるという考えが常識でした。それに対して鈴木は子供が言葉を覚えると同様なやり方で幼児に音楽を覚える環境を与えれば、誰でもヴァイオリンやピアノを弾く事が出来ると考えました。鈴木は、「人は環境の子なり」と呼び、「どの子も育つ、育て方一つ」という標語を創りました。このことが大変重要でございます。もし仮にこのことに確信が無いとしたらどうでしょうか。能力ある子しかヴァイオリンを上手に弾けないということになり、能力の無い子に対する指導は出来ない、あるいはとても難しいということになります。しかし、私たちは子供達に正しく教えれば誰でも育つということを50年以上経験し、実践して参りました。

さて、これからお話する内容は、私の教室で実際に指導している内容です。全国のスズキ・メソッドの教室では同様に教えております。今回はスズキ・メソッドにおける学ぶ意欲の育て方という題名をつけさせて頂きました。子供の学ぶ意欲を育てる為に私が実践している事を四つ上げさせて頂きました。

- ① CDを聴くこと
- ② 復習曲を弾くこと
- ③ 音程と音質を学ぶこと
- ④ 合同レッスンに参加すること



①CDを聴くことですが、CDをたくさん聴かせるということは、スズキ・メソッドの尤も特徴的な指導法です。母語教育法と言われますように幼児が母親から言葉を覚えると言うプロセスをそのまま指導法に取り入れたのです。未だ弾けない前からCDをたくさん聴かせる事により曲を先に覚えてしまうのです。幼児が最初に言葉を覚える順序は、最初に耳から覚えることから話すです。ということから、CDを聴くことからヴァイオリンを弾くということが尤も自然なのです。子供が読み書きが出来るのは言葉を話せるようになってからであり、音楽の読み書き、即ち読譜も同様に、ヴァイオリンが弾けるようになってからが正しいのです。ヴァイオリンと言うのは音楽を演奏する道具に過ぎない訳ですから、音楽が好きにならなくてヴァイオリンだけが上達するという事はありません。私が何時も例に上げるのですが、スズキ・メソッド出身の演奏家の竹澤京子さんは5才でモーツァルトの協奏曲を、渡辺麗子さんはバッハの無伴奏協奏曲を良く聴いていたという事

です。このような話はスズキ・メソッド出身以外の人でも幾らでもある話ですが、私が言いたいことはCDをかけてあげるの親御さんの役目だということです。いくら子供が音楽が好きでも自分独りでかけて聴くという事までは望めません。私のクラスでは何人かの生徒さんのお母さんは、車の移動の短い時間に音楽をかけてあげていて、その子供さんの音楽の理解力もヴァイオリンの音も良く育っています。

次に私がレッスンで強く感じているのは、家庭でのCDの聴き方の差がレッスンでの進み方の差が大きいということです。生徒さんを見れば家でどれだけお稽古して、CDを聴いているか大体見当がつかます。スズキ・メソッドの教本は世界的に初歩のテキストとして尤も普及したものであり、ある統計では6割とも言われております。私の教室がスズキ・メソッドであろうとなかろうとスズキの教本を勉強する以上はCDを聴かずに教本を進める事は出来ません。ではCDを聴く事の本当の意味は音楽を覚える事ではなく曲を理解する為の耳の能力を育てるという事です。例えば、「きらきら星」という曲がありますが、これを覚える為に500回CDを聴いた生徒さんがいたとします。その生徒さんは次の曲「蝶々」ですけれども、又500回聴く必要があるかという、300回或いは200回で覚えられるという事です。つまり、聞く力がついている為に前よりも少ない回数で覚えられるという事です。このようにCDを聴く意味とは、音楽を理解するのに必要な優れた耳を育てるという事です。そして、音楽を理解する耳が育つことにより、スポンジが水を吸収するように曲を覚える、このことが生徒さんの練習意欲を育てる事になるのです。

②習曲を弾くことですが、復習曲という言葉は聞きなれない言葉だと思いますが、スズキ・メソッドでは現在習っている最新の曲以外のこれまで習った曲全てを復習曲と言います。そしてこの復習曲を沢山回数をこなして弾く事で本当の演奏力が身につくのであります。多くの生徒さんは最新の曲の練習に大部分の時間を使っているらしいです。最新の曲はテンポで弾けない、まだゆっくりとしか弾けない状態なのです。これに練習時間の大半を費やした場合明らかに運動不足が生じます。一方で良く引ける生徒さんは復習曲に半分以上の時間を割きます。復習曲の場合、テンポで弾ける事が多いので十分な運動量を確保できます。スズキ・メソッドの場合特に公表はしていませんが、この運動量を重視しています。又、テキスト自体曲の数が大変多く、これは早期に運動量の力の習得を目指したものであります。そこで私が生徒さんにお勧めしている事は、復習曲に練習時間の半分以上を割く事、2番目にアレグロ、プレストといわれる速い曲を選ぶ事です。復習曲の中から気に入った曲を何曲か毎日弾く事が大切です。そして、良く弾けるようになったら復習曲の中から得意な曲が1曲ずつ増えていきます。初歩の段階で運動量の豊富な協奏曲を沢山練習する事です。曲のレベルが上がるほど、それをこなすほど力がつかます。速い曲に習熟すればラルゴやアダージョなど遅い曲が上手になるというのではないです。また、立派な演奏をするには他にもさまざまな勉強が必要です。

まずは運動能力を高める事が重要です。高度な曲になればなるほどフレーズを高速に処理する能力が求められます。早い曲の復習は演奏に必要な基礎力、即ち運動力が着くのです。又、復習曲を数多くこなすことで身につけた包容力が、新しい曲を進めるために必要な原動力になり、弾ける曲の数が増え、それが自信へと繋がります。

③音程と音質を学ぶことですが、これらは先ほどとは異なり、意欲を育てる為に必要不可欠なことです。まずは音程についてですが、ヴァイオリンは自ら音程を作る楽器です。音程だけではなく、リズムやテンポ、曲の速さを自分で決めるのです。その中でも先ず音程を決めなければなりません。このことを習ってから早い段階で身につけることが必要です。スズキ・メソードの場合は初期の指導で音程を自分で作ることを教えますが、これを教えないと次のような事が起きます。即ち、音を聴かないで抑えてしまう事です。音が狂っている事が自分でも判っているが後を直す事をしない、直す事を教わらない、つまり音程が狂ったまま弾いているわけです。これはヴァイオリンのお稽古で最も悪い状況です。指導者はこの状態を絶対に容認してはならないのです。音程は誰でも間違えることがあります。私が言いたいのは、音程を知っている人がたまたま間違えるのではなく、知らない人が常時継続的に間違えている事が良くないと言うことです。初期の段階で音程を覚える間は全員が間違えるのですが、これは指導者が上手に正しい音程に導くのです。これを教えるのは大変な事ですが、これを教えないならばその先がないので、必ず教えないならばならないのです。初期の段階から音程を教える事は、子供の練習意欲を育てる為に必要不可欠である事と言えます。

次に音質についてですが、先ほどは音程は自分で作るという、左手の話でしたが、今度は弓を持つ右手の話です。右手の場合にはどんな弾き方でも一応音は出るので、良い音と悪い音の境界線というのは幅が広く、私が言う悪い音というのは、耳が肥えている人が厳しく言うレベルではなく、誰が聴いても良くない音のレベルの話です。先ずは、この状態をなくさなければなりません。その為には弓の持ち方と基本的な弾き方を教える事です。持ち方と弾き方については、細かくは流派がありますが、基本的な奏法という点では共通な部分があり、それは学ばなければなりません。これを学ぶ事で誰が聴いても悪い音という状況は無くなります。そしてやる気を育てる為には良い音になるための最低ラインである正しい持ち方を初期から教える事が必要です。先ほどの音程と同様に練習意欲を育てる為に必要不可欠な要素であります。

④同レッスンに参加することでは、現在私の教室では個人レッスンが月に3回と合同レッスンが月に1回あります。鈴木先生の「人は環境の子なり」の言葉通り、ヴァイオリンを弾いている生徒さんを実際に見て聴く事が上達する為には不可欠であります。ヴァイオリンを進歩する上で大切なことは、間違い或いは正しさに気付くということです。上達するという事は間違いに気付く事の連続であるという事です。しかし個人レッスンの場合は指導者から指摘される事が中心となり、その場で気付かない事が多

いのです。一方、合同レッスンでは自分は弾かずに人の演奏を聞く時間があるのでそこで気付くのです。多くの生徒さんの演奏を見て聴く事が大変刺激になるのです。例えば、合同の中では必ず独りは自分が目標とする生徒が見つかります。私の教室の合同レッスンでは個人レッスンとは違う生き生きとした表情をしております。合同レッスンが生徒さんの意欲を高める事はごく自然な事です。

これまでの4点を纏めますと、生徒さんの意欲を引き出すためのポイントは大きく次の二つです。一つは、上達する為の方法を見つけることです。これはCDを聴く事、復習曲を弾く事、合同レッスンに参加する事です。二つ目は早い段階で音程を作る技術、良い音質で弾く技術を身につけることです。

最後に才能教育の意味について説明いたします。この私達の団体に使う名称で誤解されることがありますが、才能のある人を育てること＝英才教育と受け取られる事がありますが、正しくは誰にでもある能力を育てるという意味です。本部のある松本市で地元の人から「才能さん」と呼ばれることがありますが、この才能という事が誤解を招いているようで、最近ではスズキ・メソードという名称を多く使っております。ヴァイオリンの学習の場合、教えることより気付くことで上達する面が大きいのです。そして、気付く為には生徒さんに自発的に練習する姿勢、即ち意欲を身につけさせることが指導者として尤も大切な事です。これが、例えば学校の教科であれば、覚える事で成績が上がる事もありますが、ヴァイオリンの場合は覚える事よりも気付く事が上達に必要な事です。才能教育とは能力と意欲を日々のお稽古で育てるという事でありです。

ご清聴有難うございました。(文責 寺澤一良会員)

バッハ作曲の「無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第1番アダージョ」を拝聴♪



第2293回例会

<移動例会>

日時⇒ 平成22年11月26日(金) 点鐘12:30

場所⇒ 倶楽部泉水

第2294回例会

日時⇒ 平成22年12月5日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『練習しないでゴルフが

上手くなる方法(?)』

卓話者⇒ 梅村 星児会員